

## 平成27年度第5回観察会 記録（2回目）

日 時	平成27年 11月9日（月）～10日（火）
観察地	京都府南丹市美山町 美山かやぶきの里 及び芦生の森
講 師	かやぶきの里 美山民俗資料館 館長 中野 貞一さん 芦生の森ネイチャーガイド 1班 高御堂 麻里子さん 2班 三船 國彦さん
テー マ	「美山かやぶきの里・芦生の森」自然「観察会
備 考	参加者数 21名、スタッフ：杢三 文作、衣川 直美、山野 渉 記録 山野・杢三

### 1日目(11月9日)・雨 <美山かやぶきの里 見学>

京都駅を出発する時から恨めしい雨が降っていました。美山の「きたむら」についていた時には雨も小降りになりほっとしました。昼食後、ガイドの中野さんの了解を得て予定していた時間より早めにガイドして頂くことにしました。昼食場所の「きたむら」の前で、中野さんから美山の茅葺きの里と白川郷の茅葺きの里との違いを説明して頂きました。



#### 美山の里

- ・入母屋造り
- ・平屋
- ・鳥居くみ？
- ・壁は板壁である
- ・屋根に千木がある

#### 白川郷

- ・切り妻造り（合掌造り）
- ・2階、3階がある

等の説明があり、白川郷は世界文化遺産であるのに美山のかやぶきの里は重要伝統的建造物保存地区であると少し残念そうに話されていました。その後、集落内を散策しながら詳しく説明して頂きました。

茅葺き家屋は火災に弱く屋根も十数年毎に葺き替えをしなければならないのだが、茅葺き職人の後継者が育たず現在は茅葺き会社に依頼している。

また、防火のため各茅葺き家の庭には放水銃が設置されている。（放水銃は常時、山の上に水をくみ上げ、非常時に水を落下させその水圧で動作する）美山民俗資料館に入館し、お茶を頂きながら中野さんから家屋内部の説明がありました。最後に是非これを見て頂きたいと知井八幡神社の本殿彫刻を説明して頂いた。素晴らしい彫刻でした。観察中は傘を差しての散策でしたが、ガイドの中野さんの名口調で始終和やかな観察会でした。



### 2日目（11月10日）・雨 <芦生の森トレッキング>

今回のコースは下谷・ブナノキ峠コースを辿りました。

河鹿荘→研究林事務所横→ケヤキ峠・・ブナノキ峠・・ブナノキ峠・・トチノキ保存木・・カツラ保存木・・長治谷作業所→研究林事務所横→河鹿荘

晴天を祈っていましたが、この日も雨でした。昨日の懇親会の中で晴れ男が2名おられましたが、雨女が3名もいたようで負けてしまいました。今日のガイドは前回の観察会と同じ高御堂さんと三船さんです。河鹿荘を出発し、バスの中でお話される様子を拝見して、今回も無理をお願いした理由がわかりました。

カッパを着用してケヤキ峠で入念に準備体操し、ブナノキ峠を目指して歩き始めました。森の中は本当に幻

想的な様子です。これは雨の日でないと体験できないトレッキングです。頂上を目指す途中で何度も三船さんから観察ポイントの説明がありました。



ブナノキ峠からの下山中、三船さんが珍しい食用キノコを見つけました。「サンゴハリタケ科・サンゴハリタケ属・ヤマブシタケ」だそうです。子実体は倒卵形又は球形で傘を分化しない。色は最初白いが黄色くなる。肉は柔軟な肉質であるが、大小に孔があり、スポンジ状になっている。食べられるそうですが、見た目では、余り美味しいようなキノコです。数日前から芦生の森に雨が降ったのでキノコが出てきたようです。晴れていると見られなかったかも知れません。

ケヤキ峠まで下山し、由良川の源流である川を右に見ながら長治谷作業所への林道を歩きました。橋のたもとでバスが待っており、雨は小降りであったので、バスの中や外で昼食にしました。

午後からは谷に下り川を2回渡渉します。太いカズラがありました。サルナシの樹です。ガイドの三船さんのリュックの中からサルナシの実がでてきました。キウイの原種です。甘くて美味しかったです。サワフタギがありましたが、既に実は付いていません。別名を「牛殺し」というそうです。樹木が柔軟なので牛の鼻輪に使うことから付いたそうです。



全員無事に渡渉する

渡渉ポイントでは高御堂さんと三船さんのサポートより 全員、川に入ることもなく渡渉できました。



雨だったから見られた景色

おかげさまで長治谷作業所に全員怪我もなく到着することができ、ここからはバスに乗り河鹿荘まで帰りました。河鹿荘で高御堂さんと三船さんのお二人とお別れし、一路京都駅に向かいました。京都には予定時間の18時に無事到着ました。お疲れ様でした。

第2回目の芦生観察会は両日とも雨の中でしたが、雨の中でしか見られない景色を見ることができた。また、お二人の名ガイドさんのお陰で始終笑いが絶えることなく観察会を終えられたことが印象に残りました。

参加された方々の中から、季節の違う時に再度「芦生の森」に訪れたいとの声が聞こえていました。